

第1回日本疲労学会学術集会プログラム

6月4日(土曜日) 会場: 東京慈恵会医科大学・大学1号館3階講堂

10:00~ 受付開始

(12:00~12:45、評議員会 B棟6階セミナー室B)

学術集会開始 13:00 開始

シンポジウム

13:40~15:00、疲労のメカニズム I

オーガナイザー: 渡辺恭良 (大阪市立大学・システム神経科学・教授、疲労 COE 代表)

座長: 渡辺恭良、尾上浩隆 (東京都神経科学総合研究所・心理学研究部門)

1. ヒト疲労の脳神経メカニズム 渡辺恭良 (大阪市立大学)
2. 睡眠と疲労 尾上浩隆 (都立神経研)
3. 自律神経異常と疲労 山口浩二 (大阪大学)
4. 中枢神経性疲労モデルラットの脳内分子神経システム 片岡洋祐 (関西医大)

15:10~16:30、疲労の克服戦略

オーガナイザー・座長: 近藤一博 (東京慈恵会医科大学・微生物第1・教授)、

梶本修身 (総合医科学研究所・大阪外語大学)

1. ヘルペスウイルスと疲労との関係および定量化法の開発 近藤一博 (慈恵医大)
2. レドックス代謝制御と疲労克服戦略 井上正康 (大阪市立大学)
3. 栄養と運動疲労 伏木 亨 (京都大学)
4. 疲労定量化技術を応用した抗疲労食薬開発の現状 梶本修身 (総合医科学研究所)

16:40~17:40、慢性疲労症候群

オーガナイザー・座長: 倉恒弘彦 (関西福祉科学大学・教授)

1. みえてきた慢性疲労症候群 (CFS) の病因・病態 倉恒弘彦 (関西福祉科学大学)
2. 慢性疲労症候群とインターフェロン/2-5'オリゴアデニル酸合成酵素 (2-5 AS) /RNase L の活性化 西連寺剛 (鳥取大学)
3. 精神科から見た CFS 志水彰 (関西福祉科学大学)

18:00~、懇親会 於: 高木2号館地下食堂 (カフェテリア・リーベ)

6月5日(日曜日) 会場: 大学1号館3階講堂

9:30~10:30、小児の慢性疲労症候群

オーガナイザー・座長: 三池輝久(熊本大学医学部・小児発達学・教授)

1. 小児の慢性疲労 - 自律神経機能異常の視点から 田中英高(大阪医大)
2. 疲れやすさを訴える子どもの疫学について 沖 潤一(旭川厚生病院)
3. 小児慢性疲労症候群の病態 三池輝久(熊本大学)

10:40~12:00、過労と過労死

オーガナイザー・座長: 下光輝一(東京医科大学・副学長、衛生学公衆衛生学・教授)、
上畑鉄之丞(聖徳大学人文学部生活文化学科・教授)

1. 過労死とその予防対策 上畑鉄之丞(聖徳大学)
2. 労災裁判からみた過労死 望月浩一郎(虎ノ門協同法律事務所)
3. 循環器疾患を発症した労働者の発症前の慢性疲労をどう研究するか
斉藤良夫(中央大学)
4. 遺族による過労の主張 海老原あや子(過労死家族のこころのケアを考える会)

13:10~13:40、日本疲労学会・総会+次期会長挨拶 大学1号館3階講堂

13:50~14:50、疲労のメカニズム

オーガナイザー: 渡辺恭良(大阪市立大学・システム神経科学・教授、疲労 COE 代表)

座長: 片淵俊彦(九州大学大学院 医学研究院統合生理学分野)

片岡洋祐(関西医科大学・システム細胞科学)

1. 疲労の動物モデルと分子神経メカニズム 田中雅彰(大阪市立大学)
2. 過労が脳下垂体におよぼす影響 過労モデルラットでの解析 木山博資(大阪市大)
3. 免疫学的疲労とセロトニン神経系 片淵俊彦(九州大学)

パネルディスカッション

15:00~16:00、慢性疲労症候群診断基準の変遷と問題点

座長: 木谷照夫(堺市民病院名誉院長)、渡辺恭良(大阪市立大学)

1. CFS 厚生省診断基準設立の経緯: 木谷照夫(堺市民病院)
2. CFS 診断基準の変遷と問題点: 橋本信也(日本医師会)
3. CFS 診断基準の国際状況: 倉恒弘彦(関西福祉科学大学)
4. 慢性疲労症候群(疑)患者の諸病像と確定診断の可能性: 伴信太郎(名古屋大学)
5. 臨床検査とCFS診断の問題点: 下村登規夫(国立病院機構・さいがた病院)

16:05~17:00、討論会: 慢性疲労症候群の診断基準

「日本疲労学会版 CFS 診断基準の作成に向けて」

パネラー: 橋本信也、倉恒弘彦、志水 彰、伴信太郎、下村登規夫